

海底へと消えた命

一宮市立浅野小学校 六年 岡庭 友梨

私はこの夏、沖縄を訪れました。二年前学校でもらったマンガが本の今を生きるきみたちへを読んで、対馬丸記念館へ行ってみたいと思っただけです。私と同じ小学生もたくさん乗船していた対馬丸。なぜ戦争に参加しない小学生たちが死ななくてはいけなかったのか。その答えを探しに行きました。

沖縄が戦場になると判断した日本政府によって、子ども、女性、老人が本州や台湾にひなんすることになりました。その再開船が対馬丸です。対馬丸には約千七百人が乗船していましたが、アメリカのせん水かんボーフイン号が魚らいこうげきをして船が海にすめられました。乗船者のうち約八わりの人が海底へと消えてしまいました。子どもたちなど乗船者の多くがね静まった夜十時過ぎの出来事で、船は十分足らずでしずんだため、にげおくれた人が多かったこと、

台風が接近中であつたため、高波にのまれた人がいたこと等がわかりました。また、長いひょう流中になくなる人もいました。生存者の悲さんな体験を読み、必死に生きのびようとしたすがたにのみだがあふれました。一人一人のきょうふや無念さを感じ、おそろしすぎで、自分に置きかえて考えることもできませんでした。生き残つたこともたちが、そ開先で苦しい体験をしたこともわかりました。

私は、アメリカ軍がたくさんの子どもたちに乗っているそ開船をねらうなんて、なんてひきょうだと思つていました。しかし、対馬丸はそ開船ではなかつたと知りました。上海で兵隊を乗せて沖縄にむかい、兵隊をおろして空になつた船に、そ開者を乗せて本土へ運んだと書いてありました。アメリカ側も子どもたちが乗っているとは知らなかつたのではないかと思います。知らないことはこわいことです。知らないことで相手をにくむ心が生まれ、戦争につながることもあると思います。

記念館に実際に行ってみないとわからないこともありました。でも結局、私はこの体験におねをいためるだけで、本当の苦しみを理解することはできません。しかし、知ろうとしなければ本当に平和を目指すとは言えないと思います。相手を思う、知ろうとすることが大切です。

平和とは何かを考えました。私は、選たかできることだと思っています。何を食べるか、何で遊ぶか、しように来何になるか。自分で決

められることが平和だと思っています。戦争になれば、食べるものも、遊ぶことも、しように来も全部、自分で選べません。選べる私たちが戦争をしないところの先もずと選たくできるとよいと思います。

最後に、対馬丸記念館の受付の方に、一宮市から来たことを伝えたところ、記念ひと桜の話の聞きしました。感謝され、同じ一宮市民として、とてもほこらしい気持ちになりました。私も平和への活動に取り組みたいです。